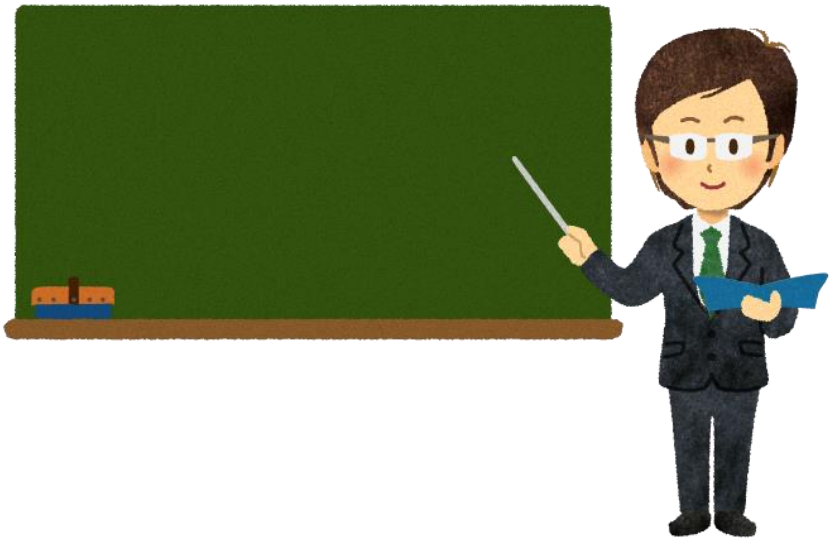
表紙

令和6年度（2024 年度） 学力向上推進委員会（国語部会）資料

研究主題

はちおうじっ子の基礎的・基本的な学力の定着をめざして

～言葉による見方・考え方を踏まえた授業改善を通して～



本市では、すべての児童・生徒に、義務教育終了段階における学力の保障を目標として、令和5年度から「社会生活を営む上で最低限身に付けるべき学習内容（小学校第5学年修了程度）」から抽出した問題を「はちおうじっ子ミニマム」と位置付けて取り組んできました。

令和6年度は、4月と11月の年2回、「はちおうじっ子ミニマム」について実施・分析し、各校の授業改善に向けて取り組んできました。しかし、学習内容が定着していない児童・生徒に対して、先生方がどのように指導すればよいかという戸惑う声がありました。また、言葉による見方・考え方の視点に立った授業が行わなければ、今まで学習してきた内容が定着しないのではないかと考えました。

そこで、「はちおうじっ子ミニマム」の結果を分析し、「漢字の読み」、「漢字の書き」、「漢字の正しい使い方」、「文章読解」の4つの観点について授業改善を図り、義務教育修了段階における授業改善をめざし、学力向上推進委員会・国語部会で実践を行いました。

【令和６年度の取組】

・令和6年度はちおうじっ子ミニマムの結果分析・類似問題の作成
・令和7年度はちおうじっ子ミニマムの問題作成
・4つの観点を基にした授業改善を踏まえた授業実践
・授業実践をまとめたリーフレットづくり

授業実践のための資料

●読み書きの定着のために

～小学校の実態～

・漢字を書くことが苦手である。
・漢字の学習を意欲的に取り組むことができない。
・漢字の読み方が難しい。



・読むことはできても、書くことが苦手である。
・繰り返し書くだけの学習は、楽しく学習することができない。

～中学校の実態～

・授業で漢字学習の時間が取れず宿題に頼っている。
・楽しく漢字学習をしてほしい。



・読めても書けない生徒が多い。

実践事例①

「創作文」

新出漢字を使って、文章を作る。

例:「班」、「張」、「勉」

→僕の班は勉強を頑張っています。

熟語の理解、漢字の正しい使い方

実践事例②

「熟語穴埋めクイズ」

真ん中に入る漢字を考える。

例:　静
　　↓
　中→□←停
　　↑
　　休

熟語の理解、語彙を増やす

実践事例③

「熟語しりとり」」

制限時間内になるべくたくさんつなげられるようにする。

例:統一 → 一度 → 度数 → 数学 → 学業

熟語の理解、語彙を増やす

◎児童・生徒の変化





・楽しく漢字を覚えることができた。テストの点数も伸びた。(第5学年)
・熟語しりとりをすることで、知らなかった熟語や漢字の他の読み方を知ることができた。(第6学年)
・穴埋めクイズを作って、友だちとクイズを出し合うことで、楽しく覚えることができた。(第6学年)
・自分の知識だけでなく、辞書で調べることが新鮮で面白かった。(第6学年)
・新出漢字が書けていない生徒も、小学校の既習漢字を小テストに出題することで、前向きに取り組むようになった。(教員)

◎成果

・第6学年2学期の50問テストで、約10ポイント上がった。
・定期テストの点数が上がり、漢字検定を受験する生徒が増えた。

授業実践のための資料

●言葉の正しい使い方・文章読解の定着のために

～小学校の実態～

・長文に対しての苦手意識が強い。
・文章の内容理解が乏しい。
・主語と述語が分からない。



・授業で、言葉の意味を理解しても作文等で使うことができない。

～中学校の実態～

・文章が読めないので、深い読み取りをすることができない。
・語彙が少ないため、文章の内容を理解することができない。



・同音異義語の区別ができない。例えば、「以外」「意外」など。

実践事例④

「文章を読んで絵で表現ゲーム」

文書で書かれている内容を読み取り、正しく絵で表現する。

例:
「円が一つあります。円の左隣には、円と同じ大きさぐらいの正方形があります。正方形には、右上の角から対角線が書かれています。円と正方形は、雲のようなふわふわした線で囲まれています。」

文章を正確に読む力

実践事例⑤

「誰が何をしたでしょうゲーム」

複数の文章から正しい情報を読み取るクイズ形式のゲーム

例:
「私は、姉に英語の学習について教えてもらいました。姉は、兄に社会の歴史について教えてもらいました。」問題です。姉は誰に何を教えてもらいましたか。

文と文のつながりの理解

実践事例⑥

「コトバト」

教師の提示したお題にもっとも合う言葉(漢字)を制限時間内に辞書で探す。

例:
「あ」から始まる「やわらかいもの」、「つ」から始まる「小さいもの」は、何でしょうか。

参考資料:小学館コトバト

言葉の正しい使い方

◎児童・生徒の変化





・「文章を読んで絵で表現ゲーム」で、正しく情報を聞き取ることができるようになった。(第5学年)
・「誰が何をしたでしょうゲーム」で、物語文を読んだ時、誰が何をしたのか、すぐに見付けられるようになった。(第6学年)
・「コトバト」を活用したことで、新しい言葉の習得が増え、作文で使うことができるようになってきた。(第6学年)
・「同音異義語神経衰弱」のゲームを通して、数字を見て合わせていた生徒が、意味を理解し、熟語を選択できるようになった。(教員) ※写真参照

◎成果

・小学校のワークテストで、期待平均点を超えることができた。
・正しい言葉を意識して、作文で使えるようになった。

授業実践の成果

●実践の様子の写真

漢字の小テスト



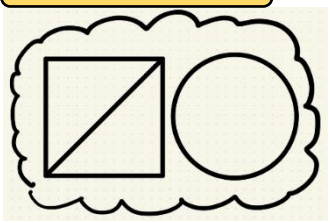
【漢字の小テスト】
　漢字の小テストを定期的に実施しました。また、定期考査の試験範囲を復習する機会として実施することで定着がみられました。

熟語穴埋めクイズ



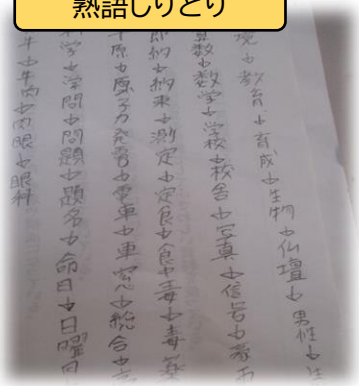
【熟語穴埋めクイズ】
　学習を通して自分でつくった問題をプリントにする児童も出てきました。意欲的に漢字を学習する姿も見え、テストなどの得点も上がりました。

絵で表現ゲーム



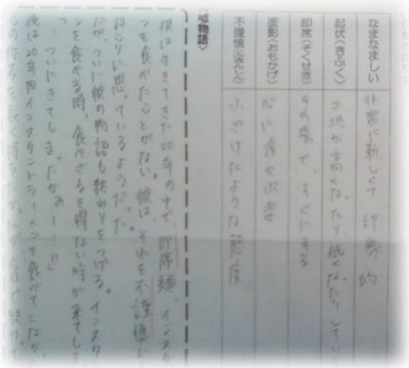
【絵で表現ゲーム】
　正確に絵で表現するために、真剣に文章を読んで理解しようとする児童の姿が見られました。
　ミライシードのオクリンク機能を利用して、友だちが描いた絵を見られるようにすることで、読み取り方の違いについても考えられました。

熟語しりとり



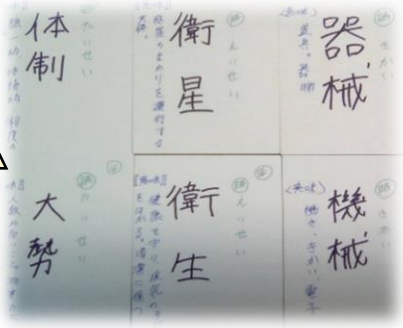
【熟語しりとり】
　熟語しりとりを行いました。ゲーム感覚で、学習に取り組むことで、友だちと楽しそうに熟語について学ぶことができました。普段。辞書を使わない児童も、辞書を引き熟語を調べていました。

創作文ゲーム



【創作文ゲーム】
　初めは短い文章でしたが、慣れてくると長文のオリジナルストーリーを作成する生徒が増えてきました。その中で、新出漢字をどのように利用するか試行錯誤する姿がありました。

同音異義語神経衰弱



【同音異義語神経衰弱】
では、生徒が同音異義語の意味を調べ、カードに書きました。自分から他の熟語にも興味をもち、調べるようすが見られました。

【令和6年度　学力向上推進委員会(国語部)委員一覧

松が谷中学校	校　長	乙幡　英剛	元八王子小学校	教　諭	小木曽　瑠美
片倉台小学校	校　長	柴沼　裕行	松が谷中学校	教　諭	三宅　隆介
打越中学校	副校長	榎本　智也	元八王子中学校	教　諭	永尾　瑞季
川口小学校	副校長	萩原　幸枝	元八王子中学校	教　諭	菊池　一真
城山小学校	主任教諭	塩見　健治			
松枝小学校	教　諭	田中　大基			